



## 運動会、毎回ステップアップ

帝京大学小学校 校長 石井卓之

コロナ後、初めて人数を制限しない運動会を実施しました。朝、昇降口で児童に挨拶していると「校長先生、私のうち、全部で10人来るんだよ。」とうれしそうに教えてくれた児童がいました。本当に暑い中、多くの方にご参観いただき、ありがとうございました。

開会前にお話をいたしました。当初予定していた12時30分閉会を熱中症予防のために可能な限り進行の無駄を省くことで、終了時刻を早めました。また、児童が閉会式中に貧血を起こさないように、座っての参加としました。保護者の皆様のご協力とマナーを守ってのご参観も進行を早めることができた重要な要因でした。心より感謝いたします。

私がこれまで経験してきた昭和時代の運動会では、学校の開門前に校門を乗り越えて校庭に入り敷物を置くことがあったり、クーラーボックスにビールを入れて持ち込み飲酒をしていたり、広い校庭の目立たない場所で昼食時にバーベキューをしていたりと、まるでアニメに出てくるような場面に遭遇しました。本校では、開門前には整然と列に並び、指定の場所に移動後も譲り合っている様子を拝見しながら、保護者の品格を感じていました。

今回の反省としては、冷房を入れた体育館をもっと早くから開放しておくことや運動会のライブ映像を開会式から体育館でスクリーンに映しておくことなどがあります。体育館の椅子を出すのも遅れて、ご不便をおかけしました。運動会終了後に体育館に入ると、使用された椅子がきれいに積み重ねられていました。

今回の運動会は今まで以上に、子どもたちが前面に出て教員が後ろから支えるという場面を増やしました。そのための準備時間はかかりますが、子どもの学びや達成感は質、量とも、格段に異なります。特に、係活動は「自分の頭で考える」を具現化している児童が数多く見られました。実際の活動が参観者から見やすい係だけでなく、例えば低学年の児童をサポートする児童係は、影から運動会を支えている立役者です。担当の教員からその係の頑張っている姿が報告されています。また、低学年の表現では、2年生の各学級がポーズを決めてそれを1年生に教えていました。同じことが中学年、高学年でも行われています。

ある保護者の方は運動会について、「上学年の子どもたちが入場門や座席で、低学年の表現を一緒になって踊っている様子を見て、とても暖かい学校だと思いました。」と感想を伝えてくれました。

集団を通して学ぶ、行事を通して学ぶ、運動会はその役割の大切な一つです。次年度も、今後行われる反省を生かしながら、よりよいものにしていきたいと考えています。

## 職員室の窓

突然ですが、わり算の筆算はなぜ、たし算などと違って  $4 \overline{)84}$  ←このように書くのでしょうか。そもそも筆算で使っている『』ってなんでしょう？ 普段、何気なく使っている計算方法ですが、それぞれちゃんと意味があります。算数を作業で終わらせるのではなく、普段の生活の中から「どうしてだろう？」というハテナを自ら見つけ、算数を学ぶ楽しさや良さ味わってほしいです。みなさんの『なぜ』『どうして』の考え、楽しみにしています！



《教諭 川嶋 開道》



《教諭 齊藤 昌宏》

子どもによく聞かれる「何の教科が好きですか」の答え、実は「国語」なんです。元々本を読むのが好きで、色々な本を読みました。文章を通して色々なものに触れる中で、歴史の年表で簡潔に書かれているところを、作者は様々な資料で豊かに表現する。それが面白くて歴史に興味を持ち、深めました。この力をどう生かすかを考えた時、先生という職を選びました。「好きこそものの上手なれ」熱心に社会科に取り組む子どもたちをこれからも応援し、指導していきます。